



くまのみ通信

中谷外科病院の理念—患者様とともに歩む

-中谷外科病院広報誌-



第23号
2011.4月発行

発行元
医療法人吉備会
中谷外科病院
患者サービス向上委員会
委員長 中谷紳

〒706-0001
玉野市田井3-1-20
TEL 0863-31-2323
FAX 0863-31-8486
ホームページ <http://www.nakatani-hosp.jp>
Eメール
Goiken@nakatani-hosp.jp

3月11日突然の東北と関東を襲った東日本大震災、大津波で街が丸ごと壊滅する未曾有の大災害。一瞬のうちにあつてなく大事な人を失う自然の怖さ。1人1人は微力であっても協力し合うと大きな力を生み出します。今、日本列島一丸となっております。桜前線も間もなくです。桜の開花のように日本列島もパッと桜色に変えられないか願わずにいられません。『負けるな東北！がんばれ日本！』

・・・今わたしたちがなすべきこと・・・

この度の震災で被災された皆様へのお見舞いと、亡くなられた多くの方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

そして復興のために昼夜を問わず現地で活動されているすべての人に敬意を表し、岡山にいる私どもにできるあらゆる支援を行っていくことを誓います。

医療従事者の一人として、まず自分のなすべきことは目の前にいる患者様のために全力をつくすことです。試練の新年度、当院では「患者様とともに歩む」ことを再確認し、職員一同で今、目の前で病気やケガに苦しんでいる患者様に適切な医療看護を提供できるよう努めてまいります。

今、わたしたち医療従事者の団結が強く求められています。診療所・病院・福祉施設の垣根をこえて、皆と助け合い、できることを各自が実行すれば、一人ではできないことの多くが可能になるはずです。

「神は人に乗り越えることの出来る試練しか与えない」

いまだかつて経験したことのない自然災害、原発事故で危機的な状況にあるこの国の一員として、私はこの言葉を信じたいと思います。今わたしたちがなすべきことは目の前にあります。

平成23年4月1日

院長 中谷紳

募金のお知らせ

今、私達ができることとして 病院受付玄関前に募金箱、また日本看護協会の募金を実施しています。『被災者の皆様に元気が届きますよう』 看護師長：新田 照美

第4回院内研究発表会

2月26日（土）各部署、各委員会9チームで研究発表会を行いました。（テーマ自由）

	発表者	テーマ
1	患者サービス向上委員会	患者サービス向上のためのアンケート（外来待ち時間調査を通じて）
2	医療安全委員会	ベッド柵の危険性と現状・改善
3	看護部病棟Aチーム	ターミナル期患者の在宅復帰支援（在宅療法までのプロセス）
4	看護部病棟Bチーム	脱水、褥瘡を持つ認知症患者の事例を通して学んだこと
5	院内感染委員会	病院環境の感染対策と手洗い（手洗い調査を通して）
6	外来看護部	継続看護に向けて在宅移行時における看護サマリーの再検討
7	褥瘡委員会	褥瘡に関する知識調査
8	看護部看護助手	コミュニケーションの大切さ（日々のケアを通して学んだこと）
9	事務部	受付での貴重なご意見

今回新たに委員会の発表も行いました。委員会の取り組みが職員に周知されるいい機会にもなりました。発表会を通して皆で病院を盛り上げ、団結力も感じられました。



＜中谷外科病院の基本方針＞

I：常に患者様の立場に立ち、行動する。

I：消化器内視鏡、大腸肛門病の専門病院として最新・最善の医療を提供する。

I：生活習慣病の予防・治療に関するチーム医療を提供する。

I：在宅復帰を支援し、社会に開かれた地域医療を行う。

I：職員同士の和を重視し思いやりのある医療を実践する。

第26回日本静脈経腸栄養学会演題発表

2011年2月17・18日 at名古屋国際会議場

演題：『動画及び写真等の視覚媒体を用いた栄養情報提供の有用性について』

要約： 栄養管理や経口摂取の問題は1つの病院・施設だけで 完結する課題ではなく、地域連携が必要である。

しかし退院時 情報提供は一般に文書で行われ、十分な情報量とは言えないのが現状である。

そこで、写真・動画等の視覚媒体を用いて、栄養情報提供を行いその有用性を検討した。

感想： 下調べ・症例検討・発表テーマの決定・抄録作成・スライド作成と約1年をかけ、発表となりました。

その間医師・MSW・看護師をはじめ多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。学会では口頭発表は9会場に分かれ約600題・ポスター発表は『ポスターの回廊』となり約800題の演題発表がされていました。とても刺激的な2日間となりました。

(管理栄養士 松本英子)



季節のお花のボランティア

病院玄関、裏玄関の鉢植え、外来女トイレ、洗面台のお花、色とりどりの花々。今日もトイレの洗面台に沈丁花が香っています。

お花のボランティアをして頂いているのは、20年前から当院患者の今井 玲子さん(玉原1丁目)。「家の庭にあるものを持ってきているだけです。」と微笑まれていました。



スタッフのひとりごと 第3回

『あら！ いつの間にか50代になってたわ』

『年の割に若いわね』『えっそんな年に見えないよ』なんてお世辞の言葉に浮かれていても、気づけば人生折り返し地点を回って孫のいる今の生活。

ゆっくり振り返るといろいろな事があるわ、あるわ。泣いたり笑ったりの思い出達。その時、その時周りにいる人達に助けられて今日の私があるのでしょうか。頑張ってきた自分も誇れるけど、めぐり合った人達にも感謝です。

30代、40代、50代・・・生活の形も違うし悩みも違うけど、最後に目指す物は人間みな同じなんでしょうね。小言を言って過ごしても笑顔で過ごしても1日24時間。今日という日は今しかありません。

一歩ずつ(歩くって止まりながら少しづつと書くんですけど)あせらず(イライラする時もあるけどね)自分の人生を大切に今日という日を大事に歩いていきたいと思っています。

スタッフのひとりごと、次回は事務 若林さんにバトンタッチ

病棟看護師 坂本 弓子

新人紹介



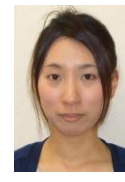
看護師:大塚 恵美

「医療機関でのお仕事は久しぶりですが、勉強しながら頑張ります。」



事務:岡 美有紀

「明るく笑顔で頑張ります。」



薬剤補助:西山 衣都子

「一生懸命頑張ります。よろしくお願ひいたします。」

今春より上記3名が入社しました。これからよろしくお願いいたします。



Nakatani surgical hospital

「エコへの取り組み」： Rthink

3月に病院協会主催のもったいないプロジェクト研修会に参加させていただき、院内のゴミ袋全てを見直す機会となりました。使用目的、コストから考え直してかなりの考慮時間を費やしました。置き場所の確保や移行手段。一つの事を変えるのも細かな点を考慮しなければなりません。これを行うことによりコスト削減にも繋がります。中谷外科はさらに次へのエコを取り組みます。(看護助手:奥田 恵美)

Reduce (リデュース) : 減らす

Reuse (リユース) : 繰り返し使う

Recycle (リサイクル) : 再資源化

Rethink (リシンク) : 再考する